
東北大学陸上競技部

OB・OG通信

2016年No. 3 (2016. 7)

- ・北海道大学対東北大学定期戦(角田市陸上競技場)
 - …男子優勝(通算46勝30敗1分)、女子2位
 - 女子4×100mRで中村(2)-佐貫(1)-吉村(3)-佐々木(2)が50” 08の部記録を樹立!
 - 女子5000mW(OP)で白井(2)が26’ 57” 34の部記録を樹立!
 - ・北日本インカレ
 - …田中(M2)が男子3000mSCで優勝し、全日本インカレへの出場権獲得!
 - ・仙台市長距離・フィールド記録会
 - …田中(M2)が男子3000mで8’ 44” 09の部記録を更新!
-

- ・北海道大学対東北大学定期戦 2～11ページ
- ・北日本インカレ 12ページ
- ・七大戦の展望 13～16ページ
- ・北大戦決勝記録一覧 17～19ページ
- ・今後の予定 20ページ
- ・編集後記 20ページ

初夏の候、会員の皆様にはますますご発展のほどお喜び申し上げます。

今号では、第77回北海道大学対東北大学陸上競技定期戦兼第29回北海道大学対東北大学女子陸上競技定期戦の結果や、第67回全国七大学陸上競技大会兼第27回全国七大学女子陸上競技大会の展望などをお伝えします。

◎北海道大学対東北大学定期戦(6/4)

…角田市陸上競技場

男子は前回大会の雪辱を果たし、見事優勝しました。女子は惜しくも2位となりましたが、各選手の健闘が見られました。なお、男子4×100mRで白鳥(2)-藤井(3)-津嶋(3)-宮崎(4)が、女子4×100mRで中村(2)-佐貫(1)-吉村(3)-佐々木(2)が、男子円盤投げで楠(2)が大会新記録を樹立しました。女子4×100mRは同時に、東北インカレに続く部記録更新となりました。また、オープン種目の女子5000mWで白井(2)が部記録を更新しました。

★北大戦 結果

・男子

	トラック	フィールド	総合
東北大学	56点	47点	103点
北海道大学	47点	33点	80点

・女子

	トラック	フィールド	総合
東北大学	24点	11点	35点
北海道大学	21点	29点	50点

☆トラック

男子 100m

1位 宮崎幸辰(4) 10"60(+1.2)

スタートから中間疾走の移行もスムーズで、ラストもスピードが出ていた。去年から続いていた不調から脱した。

4位 大衡竜太(3) 11"36(+1.2)

スタートから勢い良く飛び出し、加速。中盤までは3位、4位を争っていた。しかし上体を起こすのが早かったからか、後半力みが見られ伸びのある走りが出来ず最後1人に刺され4位でフィニッシュ。

5位 白鳥海知(2) 11"37(+1.2)

スタートから中盤にかけてスムーズに加速していき中間疾走では綺麗なフォームでトップスピードを維持するも後半80m付近からややフォームに乱れが生じ5位でゴール。全体としては白鳥本来の走

りを発揮できたといえるだろう。

女子 100m

1位 佐貫有紗(1) 12"78(+2.7)

スタートですぐに体が起き上がってしまい、隣のレーンの選手に差をつけられるが、中盤から後半にかけて大きなストライドで追い上げ、1着でゴール。

3位 佐々木千肅(2) 12"96(+2.7)

スタートしてから起き上がるのが少し早かったが、加速し周りについていった。後半は肩の力を抜きリラックスした走りでゴールした。

4位 吉村梢(3) 12"99(+2.7)

スタートの反応が良く、勢いよく飛び出し中盤まではテンポよく走っていた。60mを過ぎたあたりから上半身が乗り切れずに腰が遅れてしまった。ピッチが刻めず、失速。3人に抜かれ、4位でゴール。

男子 200m

1位 宮崎幸辰(4) 21"56(-1.0)

走路が悪いせいで、スタートが若干もたついたが、コーナーを抜けてからの加速により後続をさらに引き離れた。100mの勢いそのままに圧勝した。

4位 阿部耕大(4) 22"52(-1.0)

スタートは前回の東北インカレより良く、テンポ良く加速し、100mを三番手で通過。後半もスピードをあまり落とさず、安定した走りであったが、内からくる選手の猛追で接戦の末、わずかな差でかわされてしまい、4着でゴール。しかし状態は上向きで今後に期待できるレースであった。

6位 津嶋優希(3) 23"32(-1.0)

スタートからの加速で周りとの差をつけられてしまった。後半はスピードに乗り差をつめることができたが前半出遅れてしまったことが最後まで響いてしまった。6着でフィニッシュ。

男子 400m

2位 水戸部慶彦(3) 50"90

当日は体調管理のミスで風邪を引いていたが、そこまで悪い走りではなくまとめることができていた。対校ということで記録よりも順位を狙い、最後まで力を出し切ることなく、気持ちよく走れた。それが後のマイルに生きて感じた。しかし、タイムはまだまだなので、改善点を克服し、自己ベスト更新につなげたい。

5位 青木献広(3) 52"55

スタートは起き上がりが若干早く、改善の余地があった。また、スタートから100mまでのカーブで内側の線ギリギリを走るあまり、スムーズな加速ができていなかった。中間疾走については可もなく不可もなくといった感じで、本来の走りはできていなかった。また、前半抑え気味で走っていたのにもかかわらず後半はバテていたので練習不足を露呈していた。怪我完

治後の練習の積み重ねとその成果に期待したい。

6位 岩波発彦(2) 53"93

スタートからピッチが上がらず、両隣の選手に先行を許す。バックストレートに入ってからストライドを大きく走っていたが、最後の直線に入っても切り替えることが出来ず6着でゴール。

女子 400m

1位 佐貫有紗(1) 59"97

スタートで出遅れるもののバックストレートからじわじわと追い上げ、ホームストレートに入った時点でトップに立ち、そのまま1着でゴール。

4位 佐々木千肅(2) 1'03"30

前半はうまく加速しスピードに乗ることができたが、後半200mあたりから疲れが見え始め、順位を落としていった。最後なんとか粘り、0.03秒差で4着でゴールした。

男子 800m

1位 川口航汰(2) 1'56"56

外側の選手の様子を見ながら気持ちよくスタート。バックストレートで2番目の好位置につける。その後200mから500mまでは楽に走り、集団の中盤に埋もれるもそこからスパートをかける。600m地点でトップに立つと、一時差を詰められるもラスト100mでもう一度スパートをかける。そのまま逃げ切って1着でフィニッシュ。

4位 佐藤宏夢(2) 1'58"62

最初の200mで前方に着いたが、周りをポケットされてしまい前に出られずに集団後方で400mを58秒で通過。ラスト1周は徐々に順位を上げ、ホームストレートで3着争いになったが、振り切られて4着で得点圏に食い込んだ。

6位 清野雄太(2) 2'00"30

ブレイク時から後方に位置取りをした。ホームストレートで一時先頭まで順位を

上げたが 500m を過ぎてから周りに抜かれ始め、ラストでも十分に力を出し切れず 6 位に終わった。

女子 800m

4 位 飯田夏生(2) 2'34"25

先頭につき、スタートは 2 番手。1 周目は 73 秒で通過した。3000m の疲れもあり、2 周目にペースを上げた北大選手に抜かされ、4 着でフィニッシュ。

5 位 星屋美優(2) 2'41"30

良いスタートを切り、4 番手につける。1 周目は 75 秒での通過とややスローペース。しかし後半思うように粘れず、5 着でフィニッシュした。

6 位 李潔如(4) 2'43"20

落ち着いたスタートを切り、1 周目を 77 秒で通過。後半徐々に追い上げ、前の選手との差を詰めたが、そのまま 6 着でフィニッシュした。

男子 1500m

2 位 荒田啓輔(2) 4'09"35

スタート直後に先頭に出た松田の後方にぴったりと着く。松田についていく形で 1000m まで行く。その後先頭に出て集団を牽引。ラスト 300m でややスピードを上げるも、最後の直線で北大の選手と並ばれてしまい、スパートで競り負ける。惜しくも 2 位でフィニッシュ。

3 位 松田将大(2) 4'10"81

スタートとともに先頭にて、そのまま集団を引っ張り、400m を 65 秒で通過した。その後先頭で走るも徐々にペースが落ち、1000m 付近で先頭を譲るものの、集団先頭についていく。1200m を 3 分 22 秒で通過したのち、ペースが上がった先頭にやや離されるも粘り、3 位でゴールした。

6 位 渡邊俊(3) 4'19"63

スタートで 5 番手についた。300m あたりで順位を 6 位に落とし、400m を 66 秒で通過した。そこからは集団後方でレース

を進める。800m は 2 分 16 秒で通過、この時点で集団と少し離れ、失速し始めた。一人で粘るも順位は変わらず、そのまま 6 位でフィニッシュ。

女子 3000m

3 位 飯田夏生(2) 11'05"95

4 位 須田桜(2) 11'27"47

6 位 阿部春花(2) 11'43"86

スタートから飯田は 2 位集団を引っ張り、須田はその集団についていき、1000m を 3'35"で通過。阿部は自分のペースを保って 1000m を 3'41"で通過した。1000m 通過後から飯田は 2 番手の選手から離されて 3 位に、須田も少し遅れて 4 位で 2000m を通過。阿部はペースを少し落とし 6 位で 2000m を通過した。その後順位に変動はなく、飯田は 3 位、須田は 4 位、阿部は 6 位でゴールした。

男子 5000m

1 位 本間涼介(4) 15'19"45

3 位 酒井啓一郎(3) 15'38"24

4 位 笠間淳平(2) 15'42"78

スタートから東北大の 3 名で集団形成。本間、笠間、酒井の順に。酒井のすぐ後ろに北大 2 名ほどつく。1 周目を 72 で通過後、北大の土橋が酒井の前に出て、本間、笠間、土橋、酒井の順でレースが進む。1000m を 3'00~3'01 で通過。ここで先頭が東北大勢+北大土橋の 4 人に絞られる。2000m 通過 6'02、先頭が笠間に。笠間、北大土橋、本間、酒井の順。3000m 通過 9'11、北大土橋が前に。土橋、本間、少し空いて酒井、笠間の順。4000m を本間が 12 分 16 秒で先頭、少し空いて土橋、10 秒程後方に酒井、さらに後方で笠間が通過。本間が残り 1000m でペースを上げ、北大土橋を離す。本間 15'19、酒井 15'38、笠間 15'42 で 1,3,4 位フィニッシュ。

男子 110mH

1位 工藤翼(3) 14"93(+2.1)

1 台目までのアプローチでいつものキレを出せなかったが、中盤から後半にかけては良いリズムでインターバルを刻めており、後半の伸びで競っていた北大の選手に 8 台目から差を広げ見事 1 着を取った。更なる記録の更新が期待できる内容であった。

3位 本間大輔(M1) 15"47(+2.1)

1 台目の入りは良し。しかし、2, 3 台目の加速が上位 2 選手と比べるとまだまだ遅い。5 台目で着地が失敗して大きくバランスを崩す。その後、態勢を持ち直すも上位 2 選手との差は大きく開いてしまい 3 着でフィニッシュ。

4位 勝井友樹(2) 16"19(+2.1)

前半はまずまずの出だし。周りにも食らいついていけていた。しかし、中盤から徐々に周りに引き離されてしまい、ハードルのインターバルの走りも苦しくなった。そのまま 4 位でゴール。

男子 400mH

2位 小幡卓哉(4) 57"47

スタートからの加速はよく、1 台目まではスピードに乗っていた。しかし、2 台目以降バックストレートでは追い風の影響もありインターバルが詰まり、ハードル前で減速していた。前半の追い風の影響もあり、レース後半まで体力が残っていたのか、8 台目まで 15 歩で通していた。9 台目では 16 歩で逆足となり、10 台目では 19 歩に増えてしまい大幅に減速してしまった。全体としてハードル前での減速が多いレースとなった。

4位 沼田亮介(2) 59"16

1 台目を越えた時点で先頭に遅れをとる形となるがバックストレートからはストライドを伸ばしリラックスしたフォームを維持。後半 200m を過ぎた辺りから踏

み切る手前で脚を刻む動作が増えスピードを殺してしまうもラスト気力の走りで 4 位に滑り込む。

5位 羽根田佑真(1) 1'00"77

1 台目からうまくハードルに入り込めず、流れに乗れていなかった。7 台目まではなんとか 4 位に食らいついていくも、8 台目であまり大きく減速。そこで 4 位にだいぶ離され、10 台目をぬけてからもその差をつめきれず 5 位でゴール。

男子 3000mSC

1位 南雲信之介(5) 9'51"15

2位 田中翔悟(4) 9'51"88

6位 高橋仙一(4) 10'13"77

序盤は東北大の 3 名からなる先頭集団を南雲がひっぱり、集団が縦長となる展開。初めの 1000m の通過は南雲が先頭のまま、3'10"田中、高橋はそれに続いた。1400m 過ぎから高橋が離れ始め、北大の選手が二番手に躍り出る。その後、2000m を過ぎてからは、南雲、北大の先頭争いに田中が食らいつく展開。高橋は六番手でのレースとなった。最終周、最後の障害を越えたのち、南雲、田中はスパートをかけ、南雲はトップ、田中が二番手でゴール。高橋は六番手でのフィニッシュとなった。

男子 5000mW

3位 及川一真(2) 23'48"46

スタート後 2 番手グループについて行く。なめらかでロスのないフォームの歩きで力をためスパートまでついていったが、暑さのせいかラスト 200m でお腹を痛め、前の選手に離されたがスパートをかけ、2 位に 3 秒差と迫った。今期調子が戻りつつある及川に期待したい。

4位 森渉(3) 25'22"63

3000m まで安定した歩きで 1 キロ 5 分のラップを刻んだ。中盤から 1 人になりペースが落ちたが、ラスト 1000m で上げて、自己ベストを更新した。フォームを良くす

れば記録はまだまだ伸びるだろう。更に上を目指して欲しい。

男子 4×100mR

1位 東北大学 42"00 GR

白鳥(2)-藤井(3)-津嶋(3)-宮崎(4)

白鳥:スタート後順調に加速しカーブを捌く。北大との差をやや広げ1走の役目を果たした。バトンのタイミングはまずまず。藤井:他種目出場の疲労が残る中、北大に追い上げられ終盤顕著に失速する。苦しくも3走にバトンを渡す。

津嶋:バトンにやや時間をかけてしまった。終盤リードを奪われるも、北大に対し粘りを見せた。

宮崎:劣勢から一気に加速、100mで復調を見せた勢いを保って即座に逆転し、リードを広げフィニッシュ。大会新を叩き出した。

女子 4×100mR

1位 東北大学 50"08 GR 部記録

中村(2)-佐貫(1)-吉村(3)-佐々木(2)

中村:スタートで少し出遅れ、アウトレーンの北海道大に離されてしまった。しかし、その後はスムーズに加速していき、スピードに乗ってからは離されることなく、バトンパスへ移った。

佐貫:バトン少し詰まったが、滞ることなく素早く渡った。バトンが渡ると、どんどん勢いに乗っていき、前との差を縮めていった。

吉村:バトンは詰まり、佐貫が若干減速しながらのパスとなった。上手く勢いに乗り、北海道大を内側から抜き、バトンパスへ。

佐々木:バトンはスムーズに渡り、北海道大と大きく差が付いた。その後も大きなフォームで差を広げていき、1位でゴール。

男子 4×400mR

1位 東北大学 3'22"15

白鳥(2)-阿部(4)-宮崎(4)-水戸部(3)

一走の白鳥は最初の200mは力みを感じさせない走りをして見せた。ショートス

プリンターゆえに後半はやや失速してしまうがそこまで離されずに二走につないだ。

二走の阿部は前半の200mで北大を捉え一気に抜き去った。やはりマイルの要とも言える阿部の走りは一貫して安定感と伸びがあった。

三走の宮崎はさすがと言っていいほど前半から北大を寄せ付けない走りをみせた。後半やや疲れが見えたものの前半の貯金もあり、余裕を持ってバトンをつないだ。

四走の水戸部が前半から勢いのある走りをし、ラスト100mも大きな減速も見られず、差を詰められることなくゴールした。

☆フィールド

男子走高跳

1位 藤井佳祐(3) 1m93

三段跳に出場後、走高跳に出場した。公式練習で185cmをクリアすることが出来たが調子が良かったためか踏切位置が近かった。そのためいつもより後ろに下げた。180cmからスタートし1回目でクリア。ここで4×100mRのため185、190はパスした。リレー後足をつたがすぐ治ったので193に挑戦した。1回目は時間切れで失敗続く2回目では普段膝が痛く踏切が怖かったが走った後なのか体も膝の痛みを感じずに踏み切ることができクリア。196にあがり1、2回目は高さを考えてしまい失敗。3回目は何も考えずにいけたが後少し高さが足りずに失敗してしまった。結果的には大学ベストではあったが、しっかり技術を身に付けベストを跳べるように頑張っていきたい。

2位 山下一也(2) 1m93

体はよく動いていたが、風の影響もあり助走が安定しなかった。185cmから193cmの2回目の試技まではあまり良い跳躍が出なかったが、193cmでは助走を

上手く走ることができ余裕をもってクリア。しかし、196cmに上がるとまた助走が安定せず2回失敗。3回目の試技は助走が上手いき、踏切も良く体はかなり浮き上がったが、頂点が合わず失敗。記録は193cmに終わったが、196cmの試技でも良い跳躍が出来たので収穫はあった。助走の安定感がないので改善していく必要があると改めて認識することができた大会であった。

4位 根谷温(2) 1m70

北大戦に出場し、記録は170であった。身体はよく動いていたが、対校戦に慣れておらず、緊張し、助走から踏切から何まで動きが硬くなってしまい、全体としてパツとしない跳躍になってしまった。

160から跳び始めた。160,165は難なく1回目でクリアしたが、決して良い跳躍ではなかった。バーは170に上がり、1回目はバーを落としてしまった。2回目は、とにかく何も考えないように跳び、クリア。その日で一番良い跳躍だったように思う。

しかし、175にバーが上がると、跳ぼうという気持ちに飲まれてしまい、3回ともバーを落としてしまった。

今回の課題はとにかくメンタルであった。気負いすぎないようにこれからは気をつけようと感じた。

女子走高跳

2位 中村真璃子(2) 1m50

140からスタートした。140は1回でクリア。バーは揺れていたのので体は完璧に上がっていなかった。145は3回目でクリア。3本目は助走を少し前に出したことで踏切の位置を調整し、跳ぶことができた。150は1回目でクリア。145の3本目と同じような跳躍を心がけて跳躍した。153は全部落とした。3本目がもう少しで跳べそうだったが、足が当たりバーは落ちた。走幅跳、リレーをしてからの走高跳だったの

で、疲れがあった。多種目こなせるような体力がないのが問題点だった。

4位 渡邊朝美(4) 1m40

しっかり踏み切ることができず、140で終了。ひとつひとつ丁寧に練習して欲しい。

6位 門脇郁(2) 1m35

1m25、30ともに1本目でクリアしたものの、11歩の助走を活かしきれていない。1m35の1本目は踏切位置が近く、力が前に働いてしまった。2本目は助走にぎこちなさがあるが、踏切の力で無理矢理クリア。全体的に助走の内傾ができておらず、高跳びらしい助走になっていない。今後助走の修正が必要である。

男子棒高跳

1位 高橋拓実(4) 4m70

他の競技者がいなくなった4m60からスタート。1本目は踏み切り位置が前になりすぎ手を滑らせてしまった。記録なしのプレッシャーがかかる二本目、安全に合わせて跳びクリア。バーは4m70へ。1本目でクリアしたが、いつもほどの余裕はなかった。バーは大会新となる4m85へ。しかしここから強い向かい風に見舞われた。二本目こそ体を上げたものの失敗。三本目は踏み切ることすらできなかった。風を味方につける選手になってもらいたい。

2位 高橋昇之(2) 4m40

4m40からの挑戦、北大の対校選手はすでに競技が終了しており、跳べば2位以上が確定する局面だった。1本目、足が詰まり、跳躍に幅が出ず×、2本目、高さに余裕はなかったがなんとか○、得点を決めた。続いて4m50の挑戦、幅が出すぎて、ポールを変えるもうまく合わせられず競技終了。対校戦と呼ぶには少し物足りない内容であった。

男子走幅跳

1位 岡部大輝(M2) 6m88(-2.4)

1本目、助走が遠く、後半で足を合わせ、間延びした跳躍となってしまった。2本目、拍手を求め、高さのあるこの日1番の跳躍を見せるもファール。3本目、後半で間延びしてしまった。4本目、ファール。5本目、風向きが変わり、向かい風が強くなってきていたがうまく合わせた。6本目、手拍子を求めるもファール。おそらく飛距離が出ていたであろう3本をすべてファールしてしまったのはいただけない。より精度の高い助走スキルが求められる。

2位 今泉裕真(2) 6m83(+0.2)

今回の北大戦は丁度いい天気、気温で体がよく動いた。1本目から3本目の跳躍では、体が動いていたせいか助走が詰まってしまったので修正を重ねて、3本目まで記録を段々に伸ばし、6m74で前半の試技を終えた。4本目は、手拍子をお願いしたためか、リズム良く踏み切りまでもっていくことができたので、6m83と自己ベストに近い記録がでた。5本目6本目は、欲張ったせいで踏切時にブレーキがかかってしまい記録が伸びなかったが、結果的に2位で3点を取ることができたので今回の試合はとりあえず目標達成である。

これからのやるべき課題は明確なので、次の試合に向けて練習を重ねていきたい。

5位 大塚祐貴(3) 6m32(-1.0)

1本目が一番良い跳躍であったがファール。それ以降6本目の試技まで全て足が合わず、苦しい試合だった。

女子走幅跳

2位 吉村梢(3) 4m88(+1.8)

今シーズン初の走幅跳に出場した。結果としては4m88でPBを出すことができた。

100m、4×100mRの後ではあったが全体的には体が動いていた印象がある。1本

目は追い風もあり速度が出たため踏み切り板を超えてしまいファール。2本目は踏切板にうまく乗ることが出来今回一番の跳躍を出すことが出来た。しっかり加速も出来ておりテンポアップもしっかり出来ていた。しかし専門種目外ということもあり最後の空中動作が少し出来ていなかった印象がある。しっかり空中動作が出来ていれば5mも狙えていたと思う。3本目はまた風が強く大幅にファールをしてしまった。この時点で全体の2番であった。

4本目は2本目よりは良い踏切が出来ていたが板を完全には踏むことが出来なかったのが惜しかった。また、少し疲れが見えるのかやや助走速度が落ちていた気がする。5本目は完全にテンポが合わずファールしてしまった。6本目はしっかり助走も出来ており踏切もうまくいったが水平方向に力が行き過ぎてしまった感じが見られる。しかし2本目よりは空中動作は出来ていたと思われる。今後練習をしっかり積んで行き次の大会では5mを超えられるよう頑張りたい。

5位 渡邊朝美(4) 4m82(+2.6)

1本目2本目とも足が合わずファール。3本目は思いっきり下げてとりあえず記録を残す。

4本目も助走に乗れず、5本目ようやく跳躍の形になるものの4m82と低調。6本目も身体は浮かず終了。根本から改善する必要がある。

6位 中村真璃子(2) 4m70(+2.7)

2本目で追い風参考ながら4m70の記録が出た。6本全部、踏切板に乗らなかったため、きちんとした踏切ができなかった。練習不足を感じた。もっと安定した助走ができるように練習しようと思う。

男子三段跳

1位 藤井佳祐(3) 14m13(-0.4)

1年ぶりに三段跳に出場した。向かい風が強くなり中々助走が合わなかったが1回目の跳躍は何とか踏切が合い14m05を跳びPBであった。2回目はパスをした。3回目は助走はあったがステップで潰れてしまい13m台の跳躍。4、5回目もパスをした。6回目最後の跳躍であったので何も考えず踏み切った1回目同様ステップは潰れなかったがジャンプの後のクリアランスがうまく出来なかったが14m13を跳びPBを更新した。今回気温が高かったため体がうまく動いたのがPBを出すことができた要因と予想される。跳躍種目は3年ぶりにPBが出たので良かった。

佐藤文哉(4) NM

絶好のコンディションの中、3位入賞を目標に試合に臨んだが、1本目、2本目ともに2~3cm足が出てしまいFとなった。記録を残すために、30cm程スタート位置を下げて3本目の試技を迎えたが、ジャンプでバランスを崩してしまい、踏ん張りがきかなかつたため、着地まで持って行けずにFとなった。その結果、大会規定上4回目以降の試技に進めず、NMとなってしまった。記録を残していれば得点の可能性が大いに期待されていただけに、本人も相当悔しそうな様子であったが、七大戦までに助走を改善させ、必ず14m跳ぶと意気込んでいた。

男子砲丸投

1位 楠哲也(2) 12m31

1投目体が開くのが早かったため右にファール 2.5.6 投目は体の流れは良かったが前に上体が突っ込んでいたためうまく突き出せなかった。3投目は足が止まってしまい上体だけで投げてしまった。

3位 大塚一途(2) 10m84

1投目は、上手く重心が移動しきれてい

ない投擲だったが最低限の記録は残せる投擲だった。この結果を受けて記録を狙いに行った2投目、グライドから投げるまでの一連の流れはよかったものの、フィニッシュで押し切れずすっぽ抜けた投擲になってしまっていた。3投目も記録を伸ばせず、長めの休憩を挟んだ後の4~6投目は、いずれも焦りや考えすぎからかグライドにふらつきと勢いのなさが目立ち、記録の更新は叶わなかった。

5位 佐藤雄也(4) 10m07

北大戦の直前まで3週間教育実習に行っていたため、満足な練習もできず体に大分疲労が溜まっている状態での出場であった。練習投擲の段階で疲れのために意識している動きをすることができないと分かったため、本番の試技では速めのグライドによる投擲動作のスピードだけを意識して臨んだという。結果として、1、2投目はベストの記録に近い10mの投げができたが、以降の試技では体力が尽きたのか動きの速度・精度が落ちて10mを超えることができず意図的にファールにしていた。状況が状況なので、記録がこの程度であっても仕方がないのかもしれないが、4位に30cm及ばず1点逃してしまったのは大変悔しく思われる。

女子砲丸投

2位 渡邊朝美(4) 9m54

公式練習でいい投げをしたものの、本番は身体が開いてしまい3本目の9m54が最高。右側に逸れるファールが目立つ。七大までに形にしたい。

5位 青木千景(4) 8m61

今シーズン初となる砲丸の試合では、1投目は8m45でグライドが活かせていない、力任せの投げになっていた。砲丸の記録はいつも安定感がなかったが、安定して8m台を出すもののリリースの際に腰が引けてしまい高さの出ない投擲となり記録

がなかなか伸びなかった。ラストの6投目では、グライドの速さを意識し8m61に記録を伸ばすも5等で終わった。七大戦までには、課題となるグライドを直し得点につなげてほしい。

6位 吉田歩(4) 8m56

動きがたいへんスムーズで、1投目から8mを超え自己ベスト更新。3投目と6投目は何とか手で押し込み、8m後半まで記録を伸ばした。全身を使って投げられるようになれば、もっと記録を伸ばすことが期待できる。

男子円盤投

1位 楠哲也(2) 41m55 GR

1投目は円盤を上手くリリースできなかった。その後の投擲は新フォームによる試技であったがうまく記録を残せなかった。

5位 工藤航平(4) 27m48

最終投擲で何とか東カレと同程度の記録は残せたものの、全体的に良い結果ではなかった。課題として取り組んでいたパワーポジションにきちんと入ることと足の着く位置に関しては修正されつつあったため、今後はそこから投げに繋げていくことと、ターンであまり前に進めていないところを改善して欲しい。

6位 大塚一途(2) 25m46

1投目は確実に記録を残すためターンを付けずに投げたが、ファールを怖れて練習ほど思い切った振り切りができなかった。2投目以降はーフターンで投げたが右足の着地位置や足の回し方に問題がありファールやショートばかりであった。先輩のアドバイスを受けて左脚の周囲を右足が回るように改善した5投目では少し記録が伸びたが、それでも得点圏には届かない。逆転をかけたフルターンも回転に体幹が付いていけず、記録に結びつかなかった。

女子円盤投

1位 青木千景(4) 28m22

対校戦として初めて北大戦で女子円盤投が開催されたが、1等となるものの記録は芳しくないものとなってしまった。調子自体は良かったものの1投目はファールからスタートし、2投目に記録を残すため抑えてなげ28m22となった。そのあとも3~5投目もターンの足の設置が広くサークルから足が出てしまうファールが続いた。6投目はファールはしなかったものの、体が開いてしまい腕のみの力で投げる投擲となり記録を伸ばすことはできなかった。

4位 吉田歩(4) 18m66

初めての円盤投に出場。投げる度に記録を伸ばし、何とか得点圏内を維持した。ターンを習得すれば、より記録を伸ばすことができるだろう。

5位 佐藤 由莉(2) 17m34

初の円盤の試合、サークル内での感覚をつかむことを目標に挑んだ。4投目までの立ち投げは全て動きが小さく、胸から上の部分しか動いておらずほぼ棒立ち状態だった。5,6投目はその場でターンを教わりイメージを組み立ててターンに挑戦した。結果的にどちらも失敗投擲になってしまったが、ターンにばらけた感覚はなく円盤に力が伝わる感触が掴めたことは収穫だった。今後は練習を積んで安定した投擲ができるように期待したい。

男子ハンマー投

1位 野尻英史(2) 39m82

今シーズン2戦目、評定の改修工事のため、練習量が足りない中で挑んだ試合だった。当日の天気にも恵まれ、体がよく動くと感じた。1投目は2ターンで置きに行く投擲で、狙い通り35mほどの記録を出せた。2投目以降は3ターンで記録を伸ばすことに挑戦することができた。3投目まで

で全体で2位につけ、試技順5番目で4,5,6投目に挑戦した。4投目では直前の試技で3位の選手に逆転され、3位になって試技を行った。5投目はファールだったが感触としては悪くなく、6投目に自信が持てる投擲だった。6投目で39m87を記録し、逆転優勝となった。試合に臨む中で成長を感じることができた中で、フォームの甘さなども感じた。一定の成果と課題が見えた大会だった。

5位 工藤航平(4) 18m91

ほとんど練習もしたことの無い中で選手不足により出場した。ハンマーに体が持っていられ、まともに投げる事が出来ていなかった。体幹の弱さが露呈したので、本種目のためにもそこは強化したほうが良いと思われる。

6位 新出悠介(1) 15m99

初めてハンマー投に挑戦した。1投目、2投目は1回転の感覚を掴むイメージで投げた。3投目、4投目は記録を伸ばすためにハンマーのスピードを上げて投げた。結果、体がハンマーにふられてしまった。5投目は比較的うまく回転することができ、それが記録となった。6投目は2回転で投げたが、記録は伸びなかった。まずはハンマーの遠心力に耐えられる体作

りが必要だと実感した。

男子やり投

1位 工藤航平(4) 50m69

2年ぶりに50mを越える投擲を見せた。助走を速くしても崩れておらず、また最近の中ではラスタクロスでの踏み込みとブロックが上手くはまっていた。腕で投げている印象が強いため体全体を使った投げが出来ることさらに良くなると思われる。更に調子を上げて七大戦では50m後半の記録を出して欲しい。

2位 楠哲也(2) 49m17

準備などの為に足合わせをせずに試合に臨んだ。どれもやりが上に飛んで行ってしまい途中で失速する投擲ばかりであった。5.6投目に関してはロングが望めなかったため自らファールを選択した。

5位 木曾慎吾(2) 32m04

全体的に動きが固かったように思われた。やりを力伝える動作に連動性が無く、1つ1つの動作も安定していなかった。練習不足が否めなかったが、後半の試技において記録を伸ばしていった点が唯一の救い。5投目に投げた記録を6投目で更新出来ず競技終了。

◎第 38 回北日本学生陸上競技対校選手権大会(7/2～3)

…北海道・厚別

東北大学からは多数の選手が入賞を果たしました。また、この大会で田中(M2)が男子 3000mSC で優勝し、全日本インカレへの出場権を獲得しました。入賞した選手を紹介します。

種目	氏名(学年)	順位	記録
男子 10000m	酒井啓一郎(3)	5 位	32'25"75
男子 3000mSC	田中直樹(M2)	1 位	9'26"75
〃	南雲信之介(5)	6 位	9'57"34
男子 4×400mR	水戸部(3)-佐藤(4)- 今泉(2)-竹原(M1)	7 位	3'26"68
男子棒高跳	高橋拓実(4)	1 位	4m80
男子走幅跳	岡部大輝(M2)	2 位	7m08(+1.3)
〃	今泉裕真(2)	8 位	6m63(+2.8)
男子三段跳	岡部大輝(M2)	8 位	14m22(+1.5)
女子 5000m	宮間志帆(M1)	6 位	17'57"1
女子 3000mSC	宮間志帆(M1)	2 位	11'32"20
女子三段跳	渡邊朝美(4)	7 位	10m72(+4.0)

◎七大戦の展望 in 2016

7月30、31日に七大戦が開催されます。今年の会場は東京都の大井ふ頭中央海浜公園陸上競技場です。男女共に総合優勝を目指して頑張りますので、是非応援にお越し下さい。

主将、女子主将によるOBの皆さんへ向けた意気込みと各パートキャプテンの視点から見た今年の七大戦の展望を掲載致します。(出場選手は変更の可能性があります。)

◆主将の意気込み …高橋拓実…

主将の高橋です。今のチームになり、最終目標として掲げてきた七大戦が、いよいよやってきました。目標は変わらず、「男女優勝」です。今シーズンのチームは、東北インカレこそ目標対校得点に届かなかったものの、北大戦では大差でリベンジを果たし、その他の大会でも好記録が続出し、勢いをもって七大戦を迎えます。

七大戦において、各種目優勝を狙えるエース級の選手はいますが、第二、第三の選手による複数入賞が今年も鍵になります。七大戦は総力戦です。各選手の力だけでなく、「チームの力」が試される大会です。各選手がいつも以上の力を発揮できるよう、対校選手はもちろんですが、応援、サポート、またOP種目出場の選手も、ベストを尽くすことにより、東北大へ「流れ」を、引き寄せたいと思います。部員全員が七大戦を盛り上げ、優勝を呼び込みます。

今年は例年以上に、各大学の実力が拮抗する大会となりそうです。各選手、一つでも上の順位を目指し、全力で戦って参りますので、OB・OGの皆様、熱い応援をよろしく願います。

◆女子主将の意気込み …渡邊朝美…

先日の北大戦で、女子チームは北海道大学に完敗しました。特に、跳躍種目、長距離種目において、相手の力が大きく上回っており、部員一同危機感を感じております。しかし、その中でも今シーズンは四継の調子は右肩上がりであり、部記録を今回も更新することができました。また、対校種目にはありませんが、競歩でも部記録を更新し、雰囲気は決して悪くはありません。

七大戦は現チームで戦う最後の対校戦です。1年の時は同点2位という非常に悔しい結果に泣き、翌年は台風で本戦中止、そして昨年は主幹を務めながら4位としょっぱい結果に。私が入学してからの七大戦は悔しい思いばかりを残してきてしまいました。また、近年各種目でレベルの大きな向上により、本当の力が求められ、厳しい戦いになることは明らかです。その中で、この一年間部員全員が七大戦を目指し努力してきた成果をどこまで発揮し戦い抜けるか、楽しみであり、恐怖でもあり、わくわくしています。決してやさしい状況ではありませんが、しかし東北大は優勝を目指して戦えるチームであることに間違いはありません。そのレベルで七大戦に参加できるということは大変幸せなことです。この幸せを存分に感じながら、全力で七大戦を楽しみたいと思っております。

東北大は、毎年のことながら地味に、でも確実に点数を積み重ねていくスタイルです。どれだけ点数の取りこぼしをしないか、どれだけ上乘せしていけるか、チーム内でフォローできるか。ここがポイントとなってきます。各大学有力選手がおり、トップをとるのは難しいかもしれませんが、とれるところは全てとってこようと思います。対校選手はもち

ろん、OP参加の選手、マネージャー、応援に駆けつけてくださる先輩方、そして同じく優勝を目指して戦う男子。これまでこの女子チームに関わり、つくり上げてきて下さったすべての人々の力を結集し、初優勝に向けて全力を尽くして来たいと思います。ぜひ、楽しみにしててください。

◆短距離パートの展望

・100m、200m、400m、400mR、1600mR

短距離パートは現在、七大戦に向けて日々の練習に打ち込み、仲間と切磋琢磨しながら実力を着々とつけている段階です。冬季練習から現在に至るまで、評定河原が使えない厳しい練習環境ではありますが、工夫しながら練習を積んできました。その努力が実り、6月の北大戦では男女ともに自己記録を更新するメンバーが多く見られ、勢い付いてきました。選手の意識改革と底上げが成功しているという実感ができ、短距離PCとして嬉しい限りです。

七大戦を総合優勝するためには、短距離パートが現在予想している点数よりも一点でも多く点数を取る必要があります。今、その最終段階として練習と各種大会を通して必死になって経験値を積んでいます。また、今回の正選手のメンバーは決勝進出ラインに手が届きそうなメンバーも多く、残り数週間の追い込みで、選手のパフォーマンスレベルが上がることも可能性も充分にありますので期待できると思います。私の最後の残された使命として、短距離パートのメンバーに寄り添い、気持ちで絶対負けない雰囲気作りをしていきたいと思っています。

選手一同、全力を尽くして七大戦に臨みます。応援のほどよろしくお祈りします。

◆ハードルパートの展望

・110mH

他大に全カレ出場者が何人かいるが、今季部記録をだし、記録も安定している工藤には得点が期待できる。決勝進出ラインは15'2~15'3秒くらいか。楠木、勝井は上手

く調子を合わせ、決勝進出を窺いたい。

・400mH

こちらは名古屋、大阪、京都大に何名かレベルの高い選手がおり、決勝進出ラインが55秒前後と厳しい戦いが予想される。しかし、3人とも調子を上げてきているので1点でももぎとれるように頑張りたい。

ハードルパートの応援よろしくお祈りします。

◆中距離パートの展望

・800m

東北ICや七大戦で好成績を残した川口(2)を始め、各選手上げ調子でいる。他大の選手と比べると記録自体はやや見劣りするが、実際のレースとなると入賞の見込みは十分にあるだろう。安定して二本走る実力が試される。

・1500m

800mや5000mを専門とする選手が出場する。他大には3分台で走る選手が複数人おり、本番はハイペースなレース展開が予想される。各選手には粘り強く得点をもぎ取っていただきたい。

◆長距離パートの展望

○男子

・5000m

例年、七大戦は東北インカレ等の他の対校戦と比較してレベルが一つ上の対校戦となっている。今年も他大学に力のある選手が多く、14分台を出す実力がないと得点に絡むことは難しいだろう。しかし、東北大の選手は今シーズンに入ってから全員自己ベストを更新しており波に乗っている。調

子が合えば得点を取ることには決して不可能ではない。大会当日は一点でも多く稼ぎ、チームに貢献したい。

・3000mSC

今年から正選手枠が従来の2枠から3枠へ増えた。出場者数が増えたことで、例年よりも走りづらいレースになることも予想される。また、東北大の選手は他大学の選手と比べて実力で後れを取っているのが現状である。それでも、シーズンインしてから自己ベストを更新したり、一段階上の設定で練習をこなしたりと実力を上げてきている。このままの調子で大会当日はベストな状態で臨めるよう調整していく。

○女子

・800m

今春から中距離へ転向した飯田(2)とインターハイ経験者のルーキー上條(2)が出場。今季の記録はまずまずだが、上條は調子が戻れば得点圏内に入れる。厳しい状況ではあるが、入賞を期待したいところだ。

・3000m

昨年の上位入賞者がかなり抜けたことで、全体の水準が下がることが予想される。しかし、得点圏内に入れる選手がいないのが現状である。当日まで練習を積み、コンディションを整え、番狂わせを狙う。

◆競歩パートの展望

・男子 5000mW

今年度は1人3点制から2人4点制となった。昨年同様一日目に行われる。現在21分台が入賞ラインと昨年よりさらにハイレベルな競技になる見込みだ。及川(2)は昨シーズンの不調から復帰し、練習の調子から入賞を十分に狙える状態となった。森(3)は注意・警告を貰わない安定したフォームで確実にゴールできる歩きをする。

昨年設立された競歩パートだが、今シーズンは自己ベスト大幅更新や部記録樹立な

どいい流れがパート全体にある。この勢いを加速させて七大戦に臨み、点数を取って2日目に繋げたい。

◆跳躍パートの展望

七大戦の跳躍種目は年々レベルが上がっている。レベルとしては東北ICよりは高いと予想される。しかし、東北大の垂直系は七大でも戦えると思われ複数人の表彰台も可能だと思われる。水平系はレベルが高くPBを出さなければ厳しいと思われる。

○男子

・走幅跳

阪大の小口、名大の伊藤、東大の西村3人が7m40越えの記録を持っており抜けている。東北大では今泉が6m80、大塚が6m60、平川が6m40の記録を持っている。本戦の8ラインは昨年より下がり6m80ほどと予想される。3人全員の入賞を目指すためにPBは必須であると考えられる。

・三段跳

名大の伊藤、阪大の中谷が今シーズン15mを跳んでいる。また、東大の吉田も14m90を持っている。この2人が抜けていると考えられる。東北大は須藤が今シーズンPBを出しており前者の2人を倒せる可能性がある。佐藤も記録を伸ばしてきており七大では14mを期待できる。中村も14mを持っており体が戻れば期待できる。8ラインは14m20ほどと予想される。最低でも2人は得点に絡みたい。

・走高跳

東大の福永がベストは2m11を持っておりダントツだが今シーズンは怪我に苦しんでいるためどこまで戻っているかが鍵である。東北大は田中が2m03、山下が1m97、藤井が1m93と記録を持っておりハイレベル。確実に2人は表彰台に立ちたい。記録的には3人全員得点圏内にいるため全員得点を狙いたい。

・棒高跳

東北大 4 年の高橋が 4m90、2 年の高橋が 4m70 を持っている。他大も北大の杉山、東大の三宅、松下が記録を伸ばしてきている。この 5 人の戦いになると思われる。この種目が最も得点をとれると予想されるので期待したい。

○女子

・走幅跳

阪大の菊武、今川の 2 人が 5m40 以上の記録を持っており 2 強である。東北大の渡邊はシーズン序盤は記録が伸びなかったが最近記録が戻ってきているため 5m 以上の記録を期待できる。また、1 年の門脇もまだまだ発展途中なので期待したい。

8 ボーダーは 5m05 ぐらいと予想される。

・走高跳

京大の林が 1m60 を跳んでおり抜けている。しかし東北大の中村も今シーズン部記録タイの 1m55 を跳んでおり優勝も期待できる。また、渡邊も昨シーズン 1m50 を跳んでおり 2 人表彰台も狙えると思われる。

◆投擲パートの展望

○男子

・砲丸投

主力選手の大塚(2)、楠(2)は表彰台が狙える。表彰台ラインは 11m20 と予想される。楠は昨年に続いて 2 連覇を、大塚には去年果たせなかった得点を期待したい。今年は 10m 台の選手が多いため、佐藤(4)も 11m 前後の投擲ができれば得点は望める。得点ラインは 10m90。投擲種目の中で複数入賞が一番見込める種目であるため、3 人入賞を遂げてチームにいい流れを生み出したいところである。

・円盤投

去年に引き続き、楠(2)は優勝候補の筆頭である。自己記録を更新しつつ、2 連覇することに期待がかかる。得点ラインは 33m70

の見込みであるため、工藤(4)、佐藤(4)の得点は厳しいが、2 人とも着々と記録を伸ばしてきているため 4 年生の意地を見せてどうにか得点に絡んでもらいたい。

・ハンマー投

今シーズン、大会の度に PB を更新し続け波に乗っている野尻(2)が出場する。評定の工事のために練習が全く積めていない状況ではあるものの、冬季で伸ばしたパワーを発揮して、力強い投げを期待したい。今年のハンマー投はレベルが上がり、40m 前後を投げる選手が野尻を含めて 5 人いるが、次期 PC の野尻なら 40m を超える投擲をして表彰台に乗ってくれるであろう。

・やり投

北大戦で 2 年振りに 50m を超えて調子に戻してきた工藤(4)に得点の期待ができる。楠(2)は今シーズン不調ではあるが、練習で所々の動作を改善できているため、七大戦では記録を戻して投擲種目 3 冠を狙っていくであろう。期待の新人の新出(1)は 5 月に痛めた右肘が快調に向かっており、七大戦が大学デビュー戦とはなるが大きな活躍に期待したい。得点ラインは 52m50、表彰台ラインが 57m10。

○女子

・砲丸投

今年は得点争いが激しい種目となりそうである。9m 後半を投げる選手が他大に 4 人いる中で、渡邊(4)、青木(4)がその中にいかにくくい込んでいけるかが勝敗を分けるであろう。2 人とも北大戦まではあまり砲丸の練習ができていなかったが、今年の記録に近い記録を出せている。7 月中の練習への取組み具合では、PB を大幅に更新し得点できる見込みが十分にある。得点ラインの 9m80 を超えて、2 人ともに 4 年生として七大戦における有終の美を飾ってほしいところである。

北大戦決勝記録一覧

日時：平成28年6月4日（土）（◎：大会新記録、※：同順位対校得点表）

会場：角田市競技場

・男子

種目	1位		2位		3位		4位		5位		6位	
100m +1.2	宮崎 幸辰 東北大	10"60	堤 亘平 北大	10"86	本村 新 北大	11"22	大衡 竜太 東北大	11"36	白鳥 海知 東北大	11"37	山野 将明 北大	11"53
200m -1.0	宮崎 幸辰 東北大	21"56	堤 亘平 北大	22"25	本村 新 北大	22"48	阿部 耕大 東北大	22"52	十河 佑矢 北大	23"27	津嶋 優希 東北大	23"32
400m	本村 新 北大	50"17	水戸部慶彦 東北大	50"90	石坂 優人 北大	51"37	姫松 裕志 北大	51"39	青木 献広 東北大	52"55	岩波 発彦 東北大	53"93
800m	川口 航汰 東北大	1'56"56	姫松 裕志 北大	1'57"79	高橋 大道 北大	1'58"08	佐藤 宏夢 東北大	1'58"62	井上 結太 北大	2'00"18	清野 雄太 東北大	2'00"30
1500m	高橋 大道 北大	4'08"99	荒田 啓輔 東北大	4'09"35	松田 将大 東北大	4'10"81	金網 航平 北大	4'13"19	工藤 陽 北大	4'14"16	渡邊 俊 東北大	4'19"63
5000m	本間 涼介 東北大	15'19"45	土橋 晋也 北大	15'28"42	酒井 啓一郎 東北大	15'38"24	笠間 淳平 東北大	15'42"78	出井 俊太郎 北大	16'24"04	東郷 佑樹 北大	17'50"81
110mH +2.1	工藤 翼 東北大	14"93	鈴木 久崇 北大	15"23	本間 大輔 東北大	15"47	勝井 友樹 東北大	16"19	富樫 直斗 北大	16"33	中村 暢佑 北大	19"81
400mH	石坂 優人 北大	55"82	小幡 卓哉 東北大	57"47	富樫 直斗 北大	58"25	沼田 亮介 東北大	59"16	羽根田 佑真 東北大	1'00"77		
3000mSC	南雲 信之介 東北大	9'51"15	田中 翔梧 東北大	9'51"88	堀崎 裕史 北大	9'53"75	榊原 脩臣 北大	10'11"11	島田 潤 北大	10'13"56	高橋 仙一 東北大	10'13"77
5000mW	中川 岳士 北大	23'08"51	相武 大輝 北大	23'45"59	及川 一真 東北大	23'48"46	森 渉 東北大	25'22"63				

4×100mR	東北大学 白鳥・藤井・津嶋・宮崎	42"00◎	北海道大学 十河・堤・本村・山野	42"78								
4×400mR	東北大学 白鳥・阿部・宮崎・水戸部	3'22"15	北海道大学 阿部・本村・姫松・石坂	3'24"37								
走高跳	藤井 佳祐 東北大	1m93	山下 一也 東北大	1m93	菅井 徹人 北大	1m90	根谷 温 東北大	1m70	山下 紘平 北大	NM		
棒高跳	高橋 拓実 東北大	4m70 ◎	高橋 昇之 東北大	4m40	阿部 慎吾 北大	3m40	藤支 良貴 東北大	3m20	杉山 翔馬 北大	NM		
走幅跳	岡部 大輝 東北大	6m88 -2.4	今泉 裕真 東北大	6m83 +0.2	鈴木 久崇 北大	6m56 +1.0	佐藤 爽汰 北大	6m44 -0.9	大塚 祐貴 東北大	6m32 -1.0	鎌田 恭史 北大	5m90 -0.6
三段跳	藤井 佳祐 東北大	14m13 -0.4	北園 和也 北大	13m70 -1.6	下田 和樹 北大	13m48 -1.7	佐藤 爽汰 北大	12m80 -1.8	佐藤 文哉 東北大	NM		
砲丸投	楠 哲也 東北大	12m31	赤坂 健太郎 北大	11m99	大塚 一途 東北大	10m84	笹島 史好 北大	10m37	佐藤 雄也 東北大	10m07	稲村 勇雅 北大	9m63
円盤投	楠 哲也 東北大	41m55◎	赤坂 健太郎 北大	34m30	明石 大輝 北大	32m44	横浜 立 北大	28m28	工藤 航平 東北大	27m48	大塚 一途 東北大	25m46
ハンマー投	野尻 英史 東北大	39m82	笹島 史好 北大	39m25	稲村 勇雅 北大	39m01	横浜 立 北大	29m87	工藤 航平 東北大	18m91	新出 悠介 東北大	15m99
やり投	工藤 航平 東北大	50m69	楠 哲也 東北大	49m17	赤坂 健太郎 北大	44m85	稲村 勇雅 北大	32m62	木曾 真吾 東北大	32m04	田辺 桐吾 北大	29m82

・女子

種目	1位		2位		3位		4位		5位		6位	
100m +2.7	佐貫 有紗 東北大	12"78	戸井 文子 北大	12"85	佐々木 千肅 東北大	12"96	吉村 梢 東北大	12"99	一瀬 輪子 北大	13"07	大坂 桃子 北大	14"33
400m	佐貫 有紗 東北大	59"97	一瀬 輪子 北大	1'01"80	戸井 文子 北大	1'02"81	佐々木 千肅 東北大	1'03"30	豊澤 みどり 北大	1'03"33		
800m	上田 江里子 北大	2'24"22	竹平 佳菜子 北大	2'27"04	豊澤 みどり 北大	2'29"55	飯田 夏生 東北大	2'34"25	星屋 美優 東北大	2'41"30	李 潔如 東北大	2'43"20
3000m	上田 江里子 北大	10'51"54	竹平 佳菜子 北大	10'54"69	飯田 夏生 東北大	11'05"95	須田 桜 東北大	11'27"47	福澤 麗子 北大	11'37"85	阿部 春花 東北大	11'43"86
4×100mR	東北大 50"08◎ 中村・佐貫・吉村・佐々木		北海道大学 52"21 塚越・戸井・一瀬・辰馬									
走高跳	塚越 千弘 北大	1m50	中村 真璃子 東北大	1m50	青木 あかね 北大	1m45	渡邊 朝美 東北大	1m40	一瀬 輪子 北大	1m35	門脇 郁 東北大	1m35
走幅跳	一瀬 輪子 北大	5m10 +2.2	吉村 梢 東北大	4m88 +1.8	塚越 千弘 北大	4m86 +1.6	OchoaNakaya 北大	4m84 +1.0	渡邊 朝美 東北大	4m82 +2.6	中村 真璃子 東北大	4m70 +2.7
砲丸投	塚越 千弘 北大	10m08 ◎	渡邊 朝美 東北大	9m54	中島 由貴 北大	9m39	小堀 満代 北大	9m01	青木 千景 東北大	8m61	吉田 歩 東北大	8m56
円盤投	青木 千景 東北大	28m22	小堀 満代 北大	24m36	中島 由貴 北大	22m97	吉田 歩 東北大	18m66	佐藤 由莉 東北大	17m34	辰馬 怜子 北大	14m85

◎今後の予定

- ・7月30～31日 全国七大学対校陸上競技大会
…大井ふ頭中央海浜公園陸上競技場（東京）
- ・9月2～4日 日本学生対校陸上競技選手権大会
…熊谷スポーツ文化公園陸上競技場（埼玉）
- ・9月12日 第48回全日本大学駅伝東北地区予選会
兼 第34回全女駅伝東北地区予選会 …宮城県総合運動公園（利府）
- ・9月19～21日 第31回国公立25大学陸上競技大会
…ShonanBMW スタジアム(神奈川)
- ・10月1日 OB・OG 戦 …評定河原グラウンド

◎編集後記

6月の北大戦は男子が見事昨年の雪辱を果たし、勝利しました。女子も総合で負けはしたものの、トラックでは得点が上回り、四継で部記録を出すなど、健闘が見られました。

そして、ついに七大戦が今月末に迫ってきました。前回の七大戦から約一年、各選手この日のために鍛錬を積んできました。当日は、対校戦に出場する選手に加え、OP種目に出場する選手、応援部隊、マネージャーなど、全部員が一丸となって、戦い抜いていけたらと思います。夏の東京における、東北大学の活躍にご期待ください。

文責 吾妻祐介

東北大学陸上競技部三秀会

〒980-0815 仙台市青葉区花壇2-1

東北大学評定河原グラウンド内

hukumu_tohoku_ob2sin@yahoo.co.jp